

令和7年度福岡県農林水産公共事業評価委員会議事要旨

令和7年8月22日（金）

福岡県行政棟10階 行政特別西会議室

評価委員

大嶋委員、中野委員、西委員、野口委員、平松委員、樋渡委員、溝上委員
(50音順)

議案 検討事項：農村総合整備事業「久留米北部地区」
林道事業「熊ヶ畠・安真木線」

検討事項

・農村総合整備事業「久留米北部地区」

問：費用対効果指数が平成27年時点と比較して令和6年時点で減少した理由は何か。

答：事業を一部縮小したことに伴い、便益が減少したことによるもの。

問：費用対効果指数の評価期間は当初から伸びているのか。

答：当初の6年間から5年伸びている。

問：費用対効果分析の算定基礎となった項目はどこからデータを反映しているのか。

答：作物の反収はJAからの聞き取り、労務単価等は建設工事の最新の労務単価から反映。

問：農道整備の費用対効果指数は1.00となっているが、1を下回った場合は事業廃止となるのか。

答：そうなる。

問：用地買収が円滑に進むかが、今後の事業進捗に重要だが、見込みはどうか。

答：関係機関と連携して同意を得られるよう努力していく。

問：今回の久留米北部地区は2～3年に一度冠水被害があつて、この事業は湛水防除とは別の事業であると聞いているが、別で湛水防除事業を実施した際に、本事業の用水路に接続することがあると思うので、そういったことも見越して設計内容を今後検討して欲しい。

問：この事業が進まないことにより、冠水被害が増える等デメリットがあると思うので、そういった内容も地権者への説明に含めると良いと思う。

答：そういった内容も含めて、説得していきたい。

まとめ

県営農村総合整備事業「久留米北部地区」に関して、農林水産公共事業評価委員会の意見は、「継続」とします。（異議なし）

・林道「熊ヶ畠・安真木線」

問：開設効果指数の内訳で、育林指数の値が少ないのでなぜか。

答：現状の森林状態で計算しており、育林指数は主伐を実施した箇所と、広葉樹等を人工林に変えた箇所の面積から算出している。現時点では小さい値となっている。

問：森林づくりは50年単位の長期のため、もっと長期的な効果を説明できるような手法も今後必要だと感じる。

問：今後の計画で、間伐は計画されているが、主伐が計画されていない理由は何か。

答：今回示した計画は令和6年度末時点の状況となっており、最新の情報を別途確認したところ、主伐も令和7年度以降に計画されている。

問：事業の進捗状況について、目標90%に対して進捗83%と7%足りていないが、期間内に必ず完了するのか。

答：残区間には既設道が800mあり、この部分は改良工事となるため、開設が早まり期間内に完了できる見込み。

問：今回の事業で自然環境調査、生物のモニタリング等を行っていれば、概略を教えて欲しい。

答：当該箇所の自然環境調査でクマタカが確認されたため、猛禽類のモニタリング調査を実施している。これまで15年間のモニタリング調査で繁殖を10回確認しており、影響は無いと判断している。

問：事業コスト縮減の可能性について、数年前から同様の工法が説明されている。既に一般的な工法と言えるのではないか。

答：それ以前の従来工法と比較して、縮減になることから説明させていただいた。

まとめ

林道「熊ヶ畠・安真木線」に関して、農林水産公共事業評価委員会の意見は、「継続」とします。(異議なし)